

はじめに

本書は、**パラグラフライティング**についての本です。

パラグラフという言葉聞いたことがある人は多いと思います。それでは、パラグラフライティングとは単にパラグラフを書く、という意味でしょうか。

確かに本書ではパラグラフの書き方を解説しますし、実際にパラグラフを書いたりもします。

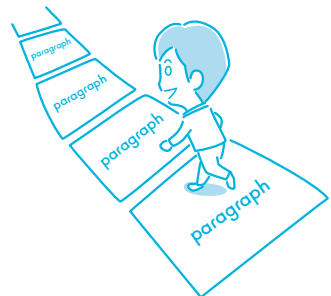
しかし、本書でお伝えしたいことはそれだけではありません。

パラグラフライティングとは？

パラグラフライティングとは、論文やレポートなどのアカデミックライティングを、英語で書く^{スキル}技術を向上させる方法です。

パラグラフライティングでは、パラグラフをすべての英語アカデミックライティングの最小単位と考えます。1つのパラグラフを適切に書くことができれば、パラグラフの数を増やしていくことで、論文やレポートといった長いアカデミックライティングも、適切に書くことができるようになるのです。

パラグラフライティングでいうパラグラフは、多分、皆さんが漠然と考えているパラグラフとは異なるのではないかと思います。



パラグラフライティングのパラグラフには、厳密な構造が定められています。そして、その構造に含まれる要素についても詳細な決まりがあります。パラグラフライティングのパラグラフを初めて知った人は、面倒で窮屈なものだと感じるかもしれません。

パラグラフライティングはなぜ、私たちのアカデミックライティングの技術^{スキル}を向上させることができるのでしょうか。

理由は3つあります。

第一に、パラグラフライティングはアカデミックライティングにまだ慣れていない人が進むべき「最初の一步」を示してくれます。構造と要素を重視するパラグラフライティングでは、まず構造という「枠」を作り、その枠のなかに要素という「ピース」をあてはめていくと自動的にパラグラフができあがります。このようにして書いたパラグラフをいくつか並べれば、1つのアカデミックライティングを完成させることができます。もちろん、これだけで質の高いアカデミックライティングができるわけではありませんが、アカデミックライティングの最初の一步を踏み出せず途方に暮れている人にとっては、パラグラフライティングは心強い味方になってくれます。

第二に、パラグラフライティングの練習を重ねると、効率的に、そして確実にアカデミックライティングの技術^{スキル}を磨くことができます。アカデミックライティングの上達には慣れが必要ですが、ただ大量に書けばいいわけではありません。どれほどたくさん書いても修正すべきポイントがわからなければ、上達までにとてつもない時間がかかってしまったり、まったく上達しない可能性もあります。パラグラフライティングの手法に従えば、たとえば、**トピックセンテンス**や**サポート**とよばれるパラグラフの要素の質を上げるといったピンポイントの努力によって、着実にアカデミックライティングの技術^{スキル}を向上させることができます。

第三に、パラグラフライティングは思考力を鍛えます。構造と要素を重視するパラグラフライティングは、最初は思考をしぼる窮屈な型だと感じられるかもしれませんが。しかし、書き手である自分自身でさえもとらえきれていない、頭の中のあやふやでバラバラなアイデアたちをパラグラフライティングの構造にあわせて整理し、余分な要素を削り、不足している要素を付け足していくと、思考そのものが変化し、思考力が育成されていきます。思考力が育てば、アカデミックライティングの内容の質も上がっていきます。

これら3つの理由で、パラグラフライティングはアカデミックライティングの^{スキル}技術の向上に役に立つのです。

著者について

本書は日本大学医学部で教育に携わる4人が執筆しました。アカデミックライティング教育に興味のある者が集まり、「医学英語ライティング教育」というタイトルで学内学会誌の『日大医学雑誌』に投稿したシリーズが事の始まりです。このシリーズを読んだ医学部内の研究者から「役に立つ」とお褒めの言葉をいただき、連載は11回（2019年10月～2022年4月）におよびました。こちらの11回の連載論文はインターネット（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/numa/-char/ja>）からダウンロードできますので、興味のある方は読んでみてください。

高橋良子は英語の教員です。英語アカデミックライティング教育と医学英語教育が専門です。本書では主に、パラグラフライティングの説明を担当しました。

野田直紀は生物学を教えています。本書では、例文・実験レポートを担当しました。例文には、本人の研究や趣味を反映したものもあります。

E. H. Jegoは医療英語を教えています。大学院では、パラグラフライティングや医療英語のコースの責任者です。本書では主に、翻訳ツールや生成型AIの使い方について説明し、英文校正も担当しました。

日台智明は生理学を教えています。大学院では、研究を指導したり、パラグラフライティングのコースを担当したりしています。大学院生に教えた経験をもとに例文を書いてみました。

本書の構成

本書は以下の5章から成っています。

まず1章では、アカデミックライティングとパラグラフライティングの関係を整理します。

2章では、パラグラフライティングの基礎を確認します。

3章では、パラグラフライティングの手法で実際にパラグラフを書いてみます。また、書いたパラグラフを推敲します。

4章では、パラグラフライティングを皆さんが論文やレポートでよく書くIMRAD形式に応用します。

最後に5章では、パラグラフを英語にする時に注意すべきことや、助けになる翻訳ツールと生成型AIとの付き合い方を紹介します。

※ 本書中の例文は、パラグラフの説明がわかりやすくなるように作成したものとあります。